

令和5年度 大学連絡会議 振り返り  
～市域の脱炭素化への取組み促進について～

令和6年11月1日  
千葉市



## ① 再エネ電力導入に向けた率先的な取組

本市では、2030年度までに全市有施設（751か所）の電力消費に伴う脱炭素化の実現を目指している。  
（PPA、再エネ由来電力メニューへの切替、証書の購入）

## ② 多様な主体と学業を通じた環境意識の向上

例：環境分野に特化した単位科目の新設

自治体・民間団体・企業等への派遣、企業等から招聘した講師の講座受講、公開講座の実施等をカリキュラムとし、単位として認定する。

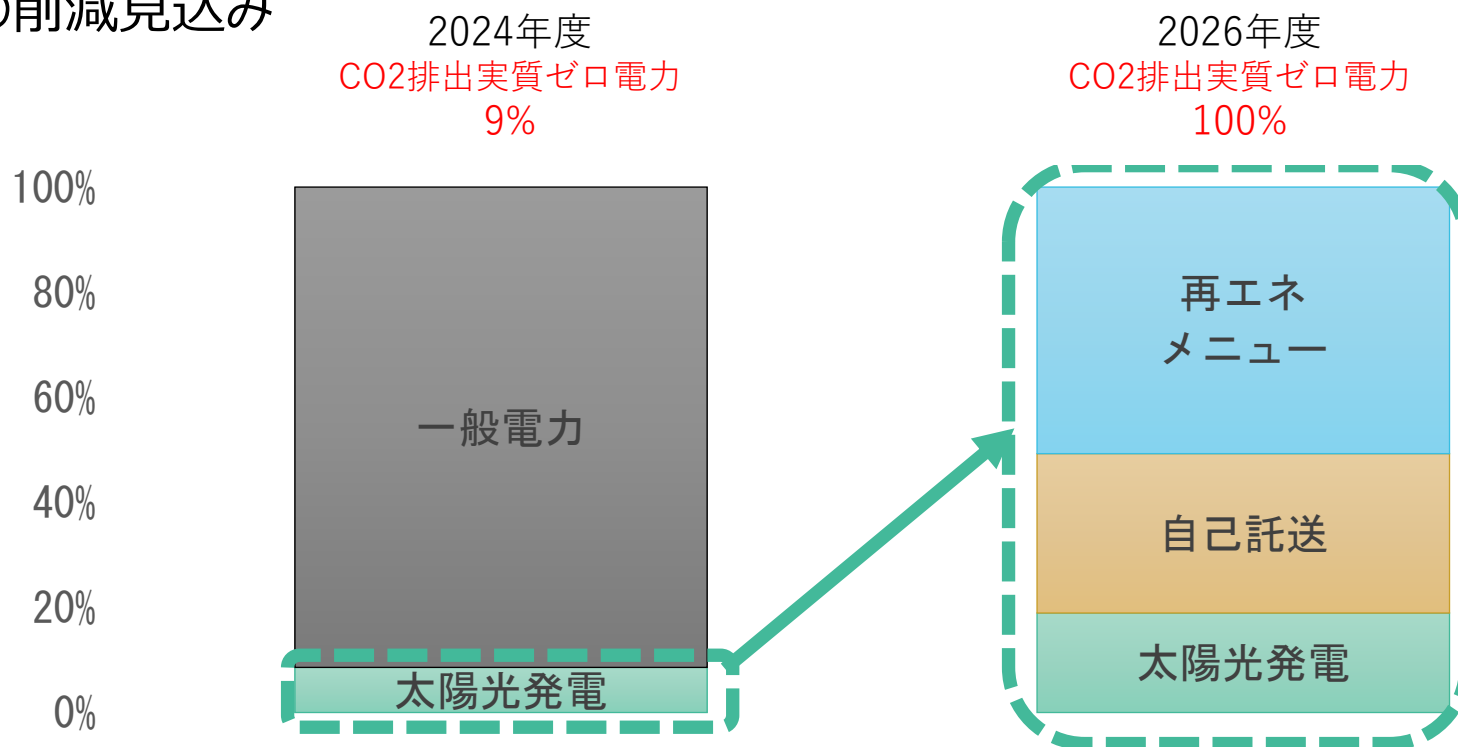
## ③ 学生のアイデアを活かした脱炭素の取組推進

令和6年度 大学生を対象にした脱炭素事業提案コンテストを開催予定



## 2026度における市有施設の電力消費に伴るCO<sub>2</sub>排出実質ゼロの実現

- 2026年度に全市有施設（約750施設）の電力消費に伴うCO<sub>2</sub>排出実質ゼロを実現できる見通し
- 太陽光発電設備の増強、清掃工場で発電する電力を自己託送することで、発電量を増やすとともに、不足分は東京電力等が販売する再エネで発電した電力メニュー（再エネメニュー）への切替を実施
- 自己託送等により、小売電気事業者から調達する電力量が削減されることから、年間電力コスト約5億円の削減見込み





## 多様な主体と学業を通じた環境意識の向上

「自治体や企業等への学生の派遣」や「企業等からの講師派遣による講座開催」などの検討



各大学からのコメント（抜粋）

- ・企業との連携はぜひ進めてほしい
- ・授業の中で脱炭素への取り組みに関するワークショップを行うとともに、一般向けにもセミナーを実施したい
- ・授業の1コマを使つての講義は可能
- ・環境教育やキャリア教育に興味を持っている学生は多い
- ・複数の企業を回るような企業ツアーを開催、その中で意見交換の場も設定したい



## 学生のアイデアを生かした脱炭素の取組推進

脱炭素施策の企画提案の場として、大学生を対象にした脱炭素事業提案コンテストの開催を検討



各大学からのコメント（抜粋）

- ・授業の中でテーマごとにグループワークを行い、成果を発表する
- ・4月の新年度授業開始のタイミングでの周知が効果的
- ・コンテストの内容が実際の政策につながることを示し、学生に意欲を出してもらう
- ・現在の政策等をブラッシュアップするようなアイデアの募集
- ・学業への影響を最小限にするため、長期休暇の有効活用が望ましい



## <敬愛大学>

令和6年5月9日

教育学部1・2年生（約130名）を対象に、千葉市の脱炭素への取り組みを講義形式で説明

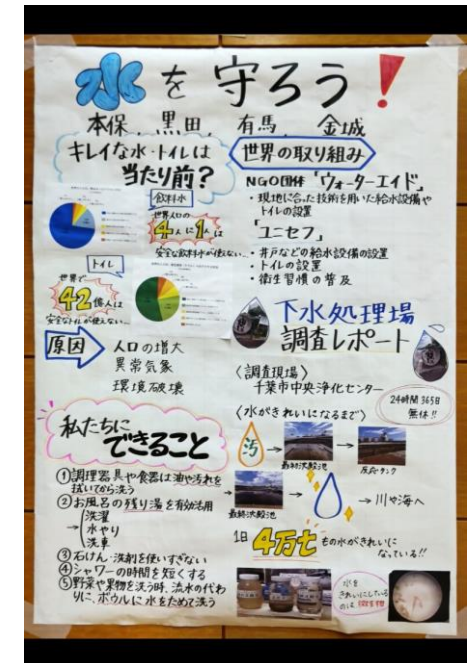


令和6年6月6日

学生がグループごとに講義内容を踏まえた課題を設定し、その解決策について中間発表（市担当者も講評のため同席）

令和6年7月18日

学生がグループごとにポスターセッションの形で発表（市担当者も講評のため同席）





## <神田外語大学>

令和6年6月27日（前半）

授業内で「世界のCO<sub>2</sub>排出量の推移」について、  
グループごとにディスカッションを実施  
（市職員及びウェザーニューズ社員も同席）



令和6年6月27日（後半）

「気候変動の現状」をテーマに、神田外語大学  
（教授、学生）、ウェザーニューズ社、千葉市が登壇  
し、一般公開でパネルディスカッションを実施



# ご清聴ありがとうございました



千葉市脱炭素キャラクター エコ葉